

実施年度 : 2023 (2024 入試) 年度
試験日 : 2023 年 9 月 9 日
入試種別 : 大学院 (修士課程) 入学試験問題
学部・研究科 : 文学研究科 全専攻共通
科目名 : 日本語

【解答又は解答例】

問一 a 清潔 b 素手 c 洗淨 d 予測 e 能動

問二 ア まぎ イ ていぎ ウ いっしゅん エ ちか オ とくてい
カ おのおの キ せんさい ク はいき ケ そうき コ ぼうだい

問三 3

問四 (例) このような「便利さ」は、近代以降の人間が獲得してきたことによる成果であり、何かのきっかけでそれがなくなったり壊れたりすれば、得ることができなくなるものであること。

問五 (例) 誰のものであるかがわかり、誰も触れていないものは、その持ち主が「死んでいる」ことを示しており、他人のものであると同時に触れることのできる「死」そのものであったから。

問六 (例) 写真には、写された人が無意識にでも残したいと思った撮影時の面影と、その人がいたがいまは失われた空間が写しとどめられているから。

問七 一つとして同じ姿はない

問八 (例) 幼いころのことを考えると、若かった母の姿がありありと思い出される。

問九 (例) 「海」は過去と未来の集積で、波という形で「今」が現れては消えていく。過去から生き、未来に続いていくものである「私の体」は、ときどき突然、何のきっかけもなく昔のことをふと思い出す。それが海と波の関係と同じであると作者は考えている。

問十 (例) 空や海、残された写真などを見ることは、過去が実在するものであったのを確認し続けることである。そのことは現在、連続して自分が実在しているのを確認することにつながり、また自分が生きていくのを支える行為になっていると作者は考えている。

なお、問一～三、問七を除く記述問題は、本専攻の「入学者受け入れの方針」を踏まえ、専攻分野に関する基礎的な研究能力の一環として、日本語日本文学についての基本的事項の知識、および言語表現能力の有無を測定するものである。設問の性格上、解答例と全く同じ解答を求めるものではない。以下に採点のポイントを示す。

- ・入学後の円滑な研究遂行が可能となるような、日本語日本文学に関する基盤的な知識を身につけていることが理解できる記述内容であること。

- ・具体例なども適切に示しつつ、分かりやすく、かつ正確な文章で説明していること。

- ・アカデミック・ライティングの基本に則り、正しい表記および文章表現で書かれていること。